

169 猿の生き肝

竜宮城の王様が、ご病気になられてね。この亀さんを遣つて、陸に行つてお猿の肝を、生肝を取るように言われてからね。この亀が、陸に上がつて、お猿さんにね、お猿さんは木の実を食べていたからね、

「あんた、こんな木の実なんか食べてね、もつと、私といつしよに竜宮城というところに行つたらね、いろいろの果物がたくさんあつて、ご馳走がたつぷりあるからね、私といつしよに行かないか」言うたらね、

「ああ、そんなご馳走があるところなら行つてもいい」つて、亀の背中に乗せて、竜宮城の、もうちよつとで竜宮城に着くところだね、亀さんがね、もうここまで来たらこつちのもんだから、もう打ち明けていいだろうと、打ち明けて言つたらね、亀さんが、

「ああ、あんたは、実はね、お猿さん。竜宮城の王様がご病気になられて、お猿の生肝をね、食べたなら元気になるからね、お猿を連れてくるように言われたから、

それで私はあなたを連れて来たんだけど、もうここまで来たら、あんたは王様を助けて下さい」と言うたらね、

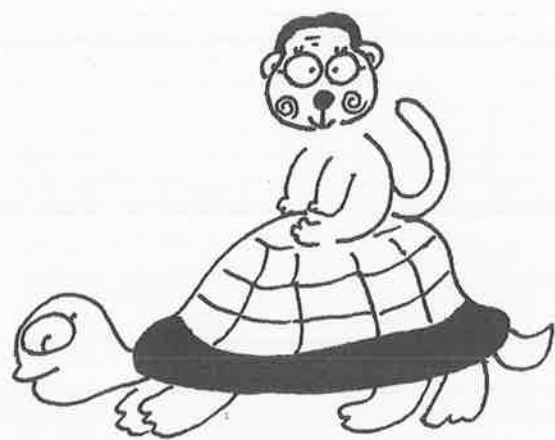
「あんたはね、これを早く、ここまで来ないうちに早く話したら私は生肝を持つて来るようにしたけど、こつち来てからね、私、生肝はね、持つてこないのに」。これは亀がだまされた話なんだよ。

それでね、

「じゃあの、仕方ないから、陸に行つてね、この私の生肝を取つてくるから、また陸まで私を連れて行きなさい」と言うたらね、

「ああ、そうですか。じゃあの、私はこの生肝のためにね、あんたをそこまで連れて来たのに、これを持つてこないと、私は王様にあんたをそのまま連れて行つてもね、理由はない。何もいる必要はないからね、じゃまた取つて来ようね」と、また陸に戻つた。

戻つたらね、このお猿さんはね、そのまんまもう逃げてしもうてよ。亀さんはもう何日何日待つても、このお猿さんはもう戻つて来ないさ。海には。それでこの亀さんがだまされた話だよ。



字伊敷

新垣ヨシ